

令和6年度 日本生物教育会全国支部長会(オンライン) 資料

・議 題

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. 令和5年度・事業報告 | 事務局・事務局長 |
| 2. 令和5年度・決算報告 | 〃 ・会計 |
| 3. 本部役員人事 | 会 長 |
| 4. 各ブロック担当副会長の人事 | 〃 |
| 5. 令和6年度・事業計画 | 事務局 |
| 6. 令和6年度・予算案 | 〃 |
| 7. 令和6年度以降の分担金について | 〃 |
| 8. 石川、新潟、富山の令和6年度分担金免除について | 〃 |
| 9. 令和7年度以降の全国大会補助金の増額について | 〃 |
| 10. 大会ローテーションについて | 〃 |
| 11. 日本生物教育会賞および中路賞について | 〃 |
| 12. 日本生物教育会感謝状贈呈者推薦のお願い | 〃 |
| 13. 共通テスト検討日程について | 〃 |
| 14. 日本理科教育協会理事会報告 | 〃 |
| 15. その他 | 〃 |

・報 告

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 令和5年度全国大会報告 | 大阪府 |
| 2. 令和6年度全国大会について | 東京都 |
| 3. 令和7年度全国大会について | 新潟県 |
| 4. 令和8年度全国大会について | 石川県 |

・その他

1 令和5年度 事業報告

- 令和5年 5月15日(月) 全国支部長会(オンライン開催)
6月20日(火) 新課程生物基礎・生物に関するシンポジウム
東京都生物教育研究会との共催により Zoom で実施
8月9日(水) 全国理事会
8月 2日(火)
8月 9日(水)～8月12日(土) 一部現地研修は、13日(日)まで
令和5年度(2023年度)日本生物教育会(JABE)第77回全国大会 大阪大会
『ほんまにおもしろい生物教育』
- (2) 主 催 日本生物教育会(JABE)・大阪府高等学校生物教育研究会
(2) 主会場 近畿大学東大阪キャンパス
(3) 参加状況 参加者数 290名(府外参加者193名 府内参加者67名)
(4) 大会内容
①記念講演 近畿大学 水産研究所白浜実験場 特任教授 升間 主計 氏
演題:「近畿大学水産研究所の養殖研究について～近大マグロを中心に～」

②シンポジウム

演題：「生徒の声をもとにこれからの生物教育を考える」

パネリスト

近畿大学 生物理工学部遺伝子工学科 大学院生物理工学研究科 教授 三谷 匡 氏
 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 藤枝 秀樹 氏
 パネリスト兼モデレーター大阪教育大学附属高等学校池田校舎 教諭 岡本 元達 氏

③研究協議

第 1 分科会：ICT 活用 第 2 分科会：探究活動
 第 3 分科会：学ぶ意欲を引き出す授業づくり 第 4 分科会：生命倫理

④研究発表・ポスター発表・展示

a. 研究発表

第 1 分科会：教材，観察・実験に関するもの 14 本
 第 2 分科会：生物教育・指導法に関するもの 16 本
 第 3 分科会：自然・環境教育に関するもの 11 本
 第 4 分科会：学術的研究に関するもの 1 本
 b. ポスターセッション 25 本（教員 11 本、生徒 14 本）

実験研修 3 コース 実験講習 4 コース

⑤ 大会記念冊子『ほんまにおもしろい生物実践』

『生物からみた大阪 8・児童生徒による指標生物調査 2022-』

令和 6 年 2 月 1 7 日（土） 共通テスト分析会(対面・オンライン)
 2 月 2 7 日（火） 大学入試センターへ検討結果提出
 3 月 1 0 日（日） 日本生物教育会応募論文締め切り
 本部役員会 応募論文審査 は 4 月 1 2 日に延期

2 決算

日本生物教育会			
2023年度(令和5年度) 決算報告			令和6年5月16日
1. 収入の部			
項目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	1,762,298	1,762,298	
支部分担金	1,025,000	1,100,000	
賛助金	0	0	
補助金	0	0	
雑収入	0	0	
合計	2,774,298	2,862,298	

2. 支出の部			
項目	予算額	決算額	備考
上部団体分担金	10,000	0	
大会補助金	400,000	400,000	大阪大会
印刷費	400,000	263,984	「生物研究」「役員名簿」
通信・運搬費	200,000	97,323	資料発送経費、送金手数料
消耗品費	150,000	18,804	封筒、コピー用紙
会議費	250,000	31,593	インターネット会議代
雑費	0	1,144	
旅費	100,000	34,105	交通費
次年度運用金	800,000		
予備費	464,298	0	シンポジウム講師代
合計	2,774,298	846,953	

収入の部－支出の部＋繰越金 = 2,862,298円 - 846,953円 = 2,015,345円

(令和6年度へ繰り越し金)

上記のとおり令和4年度決算を報告します。 令和6年4月12日 会計 堀部直美

上記会計監査の結果、令和4年度報告は適正であると認めます。

令和6年 月 日 会計監査 都築 功

本部の会計の状況は、令和3年度は収支がほぼ等しくなっておりました。そこで、資金を目減りさせないためにも、本部からの発信はメールを主として、郵送は必要最低限にさせていただきました。その他、本部として様々な経費の節減に努めた結果、昨年度に続き、繰越額が増加しました。令和5年度分分担金については、加盟全支部からの納入がまもなく完了する予定です。ご協力に感謝いたします。繰越金増額に伴う提案を議題9のところでさせていただきます。

3 本部役員人事(令和6年度) 案

*は新任 (敬称略)

会長	東京都立立川高等学校校長	鈴木 宏治
副会長	成城学園中学校高等学校校長	中村 雅浩
〃 (統括)	東京都立三田高等学校校長	内田 隆志
〃	東京都立片倉高等学校校長	萩谷 磨
〃	東京都立町田総合高等学校校長	後藤 洋士
〃	都立世田谷総合高等学校校長	田川 健太
〃	東京都立新宿高等学校副校長	成島 功二
〃	東京都立日野台高等学校副校長	加藤裕一郎 *
〃 (事務局長)	東京都立新宿高等学校指導教諭	渡邊 正治
会計	東京都立東大和高等学校教諭	堀部 直美
監査	元東京都教職員研修センター	都築 功

4 ブロック担当副会長(令和5年度のもの)

- ・北海道・東北ブロック担当： 高野 隆広 (北海道砂川高等学校長)
- ・関東ブロック担当： ※ご退官 長屋 昌恵 (群馬県立尾瀬高等学校長)
- ・中部ブロック担当： ※ご退官 鈴木 正博 (愛知県立豊明高等学校長)
- ・近畿ブロック担当： 柴原 信彦 (大阪府大阪市立新高小学校長)
- ・中国・四国ブロック担当： 平野 わかば (岡山県立倉敷南高等学校長)
- ・九州ブロック担当： 豊福 成史 (福岡県立田川高等学校長)

令和6年度 関東及び中部ブロックについては、立候補がなければ、群馬県及び愛知県の新支部長の先生にお願いしたいと考えております。

5 令和6年度 事業計画

- 令和6年 4月12日(金) 本部役員会 応募論文審査
 5月16日(木) 全国支部長会(オンライン) 18:30～ Zoom
 6月5日(水) 感謝状推薦〆切
 8月5日(月) **令和6年度 日本生物教育会(JABE) 第78回全国大会東京**
 全国理事会
 会 場 東京富士大学
 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3丁目8-1
 8月5日(月) 『生物研究』第63・理事名簿発行
 8月6日(火) 総会・記念講演・研究発表
 8月7日(水) 研究協議会・シンポジウム
 8月8日(木) 現地研修・実験講習 (一部現地研修は8月9日まで)
 大会ホームページ <https://sites.google.com/view/jabe78tokyo/>
 令和7年 2月15日(土) 予定 共通テスト分析会(対面・オンライン)
 2月25日(火) 予定 大学入試センターへ検討結果提出
 3月10日(日) 日本生物教育会応募論文締切
 3月下旬 応募論文審査(未定)

※ 日本バイオ技術教育学会様より共催での講演会のご提案をいただいております、今後検討します。

6 令和6年度予算

2024年度(令和6年度) 予算(案)		令和6年5月16日
1. 収入の部		
項目	予算額	備考
前年度繰越金	2,015,345	
支部分担金	1,010,000	令和6年度分
賛助金	0	
補助金	0	
雑収入	0	
合計	3,025,345	

2. 支出の部		
項目	予算額	備考
上部団体分担金	10,000	日本理科教育協会
大会補助金	400,000	東京大会
印刷費	400,000	「生物研究」「役員名簿」
通信・運搬費	200,000	資料発送経費、送金手数料
消耗品費	150,000	封筒、コピー用紙
会議費	100,000	全国支部長会、本部役員会等
旅費	100,000	
次年度運用金	800,000	
予備費	865,345	
合計	3,025,345	

7 令和6年度以降の分担金について

”

以下の通り提案させていただきます。

各支部から納入いただく分担金額については、令和6年度より、文部科学省が行っている学校基本調査の前年度のデータに基づき学校数をチェックの上、会則通りに納入いただく。

すなわち、49校までが1万5千円、50校から149校までが2万5千円、150校以上が3万5千円、東京と大阪は5万円です。

※補足：学校数については、全日制と定時制を併設している高校は1校扱いとし、これに中等教育学校の数を足したものを学校数とします。これに基づくと、福島県、新潟県、石川県、滋賀県、奈良県、沖縄県が従来の1万5千円から2万5千円に増額になり、福岡県は今までの3万5千円から2万5千円に減額になります。

ただし、分担金の納入により支部の財政が赤字になってしまうなどの状況が発生する場合、やむを得ない状況であることが明確にわかる会計上の書類を添えて支部長から申し出ていただき、それを本部役員会で協議し、配慮する措置を講ずることをご了承ください。

8 石川、新潟、富山の令和6年度分担金免除について

能登半島地震に伴い特に大きな被害を受けた石川県、新潟県、富山県の3県については、お見舞いと支援の意味から、令和6年度の分担金の納入を免除することを提案します。

このことは、1月16日に皆様にメールで配信いたしました。激甚災害における分担金免除の基準は、文部科学省の調査による学校の物的被害が200件を超えた場合とさせていただきたいと考えています。

9 令和7年度以降の全国大会補助金の増額について

コロナ禍以前は対面で行っていた全国支部長会は、現在オンライン開催が続いているので、対面開催の時にかかっていた会場使用料と簡単な軽食の代金約10万円が浮きます。皆様の了承が得られれば、今後も支部長会はオンライン開催を継続し、余裕資金を全国大会開催県の補助金に回したいと考えます。具体的には新潟大会より、本部の補助金を従来の40万円から50万円に増額することを提案します。

10 大会ローテーションについて

新型コロナウイルス感染拡大への対応のため、令和2年長野大会から順次1年ずつ延期しました。

☆全国大会開催地・予定地

令和5年 大阪府にて開催済み

令和6年 東京都 令和7年 新潟県 令和8年 石川県 令和9年 愛知県

参考資料

第1回以来の開催地（第81回愛知大会まで、昭和34年沖縄大会は、特別開催）

① ブロック別開催回数

ブロック	北海道・東北	関東	東京	中部	近畿	中国・四国	九州
開催回数	11	8	8	16	14	15	10

② 都道府県別開催回数

8回 東京 5回 北海道 大阪 4回 愛知 3回 石川 岡山

2回 宮城 群馬 千葉 山梨 長野 岐阜 富山 京都 奈良 兵庫

広島 島根 山口 愛媛 福岡 熊本 沖縄

1回 青森 岩手 山形 福島 栃木 茨城 新潟 静岡 福井 三重

和歌山 滋賀 香川 高知 徳島 大分 宮崎 鹿児島 佐賀 長崎

未開催 秋田 埼玉 神奈川 鳥取

③ 最近20年間のブロック別開催地（第58回～第78回東京大会まで）

ブロック	北海道・東北	関東	東京	中部	近畿	中国・四国	九州
開催回数	3	3	2	1	3	5	3

11 日本生物教育会賞応募論文及び入選論文

・『生物研究』に対する論文の応募が1件ありました。本部役員幹部による査読を経て、4月の本部役員会の中で審査を行い以下の通り決定いたしました。

【日本生物教育会賞】 応募なし

【中路賞】 東京都立国分寺高等学校 市石博 先生

タイトル『探究活動の教師の役割は「つないで、つないで、つなぎまくること」』

－難解天然記念物カラスバトの生態解明に生物部で挑んで－

市石先生は長年にわたり、生徒たちを指導し、伊豆大島のカラスバトの生態調査に取り組まれています。雑誌『遺伝』に取り組みの一部が報告されていますが、今回は「つなぐ」という視点で、新たに原稿を起こし、生徒をどのように専門家や地元の人たちと繋げていったかなどが書かれています。また、GPSの利用や声紋分析など新しい機器を活用した取り組みなど、『遺伝』では未報告の内容が多数盛り込まれており、今後の生態調査手法と参考になるという点が評価されました。

今後も会員の皆様には奮ってご応募いただきたいと思います。投稿規定は、『生物研究』に掲載しています。令和7年は3月10日〆切とさせていただきます。

12 日本生物教育会感謝状贈呈

5月7日にメールで全国の各支部に推薦のお願いを発信しました。6月3日(月)締め切りで集約します。

13 共通テスト検討日程について

共通テスト問題についての2回目の検討会は、令和6年もオンライン開催となりました。検討会には、約50名の先生方がご参加くださり、貴重なご意見をお寄せいただきました。今年度は、過去2年間、当会が要望してきた、適切な難易度と時間内に解くことが可能な問題量がある程度実現された問題になりました。皆様のご協力に感謝いたします。引き続き、問題の難易度と分量を適正なものとし、科目間での有利・不利の差がでないように要望いたしました。講評の内容は、『生物研究』に掲載しています。次回は、令和7年2月15日（土）にオンラインでの検討会を予定しています。今後も、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

14 日本理科教育協会理事会報告

日本理科教育協会とは、日本生物教育会、日本理化学協会、日本地学教育学会、全国中学校理科教育研究会、全国小学校理科教育研究会の5団体で構成する組織で、理科教育の推進や相互の情報交換を目的に年2回理事会を開いています。令和5年度は11月と2月にオンラインで開催されました。

令和7年5月11日（日）に日本理化学協会を幹事として理科教育振興法制定70周年記念式典を日本科学未来館にて開催予定で、日本理化学協会を中心に準備が進められています。

『理科』（デジタル復刊第7号）が令和6年1月に発行されました。『生物研究』（Vol.63）に掲載予定です。

15 その他 会務報告

- ・第77回大阪大会が大阪府高等学校生物教育研究会を中心とする実行委員会により、近畿大学東大阪キャンパスで開催されました。マグロの養殖などで水産養殖分野をリードする近大ならではの講演会やが行われ、また、口頭発表を先に実施し、先生方の研究内容がわかったうえで意見交換充会を実施するなど、新たな取り組みで貴重な情報交換の場ができました。現地研修も様々な大阪湾の牡蠣だの周辺でのシュノーケリングなど、様々な趣向が盛り込まれており、大変充実していました。スタッフの皆様ありがとうございました。記念誌には、興味深い実践報告盛り込まれていました。大阪からご報告をお願いいたします。
 - ・第78回東京大会について、大会実行委員会からPRをお願いいたします。
 - ・第79回新潟大会について、大会実行委員会からPRをお願いいたします。
 - ・第80回石川大会について、進行状況の報告をお願いいたします。
- ※ 令和9年開催予定の愛知県からも状況報告があればお願いいたします

支部分担金の納入は、前述の通り、令和5年度に関しては概ね加盟全支部からの納入が済んでおります。未納の県についても近日中に送信していただけることになっておりますので、まもなく完了する予定です。ご協力ありがとうございました。

・支部分担金は、規約により各支部の校数によって規定されています。都道府県あたりの学校数は、文部科学省の学校基本調査をもとにしています。

分担金の基準 1支部あたりの校数 49校以下 15,000円 50～149校 25,000円 150校以上 35,000円
東京と大阪 50,000円

- ・会費未納となっている東北3県の支部活動の活性化は、数年来の課題となっています。

— 名誉理事の推薦について —

本会の名誉理事は、各支部の推薦により、会長が認めて決定になります。推薦がございましたら、どうぞ、事務局へご連絡をお願いいたします。

事務局年間作業予定（参考）

4月	・全国大会後援等申請 ・本部役員会開催
5月	・全国支部長会開催） ・大会案内（ホームページ等） ・感謝状推薦依頼
6月	・感謝状贈呈者推薦〆切（6月5日） ・名簿作成用の原稿（電子データ） ・参与・名誉理事に案内送付・授賞者へ授賞通知（本人へ） ・日本生物教育会賞授賞者 所属長へ連絡 ・支部役員名簿更新
7月	・会誌原稿等編集・校正・理事名簿更新
8月5日	・全国理事会・開催
8月6日	・全国大会開会式・総会
8月下旬	・感謝状贈呈「生物研究」「名簿」発行 ・ 分担金納入の依頼については、全国理事会で周知の後、8月下旬に発送します。 「理事会報告」「生物研究」「名簿」を支部へ送付 「生物研究」「名簿」を名誉会長、参与、名誉理事へ送付
9月～11月	講演会またはシンポジウムを計画中
12月～1月	・次期大会事務局へ行事計画、大会日程、予算書の作成依頼、(理科教育協会理事会) ・新共通テスト検討及び大学入試センターへ報告のためのアンケート送付（メール）
2月後半	・共通テスト講評会（オンライン）意見集約、大学入試センターへ、検討結果報告
3月中旬 下旬	・本部役員会 論文審査 日本生物教育会賞授賞者へ授賞通知（本人へ） ・異動調査（メールにて）